

令和6年度第1回学校運営協議会報告
(兼コンプライアンス委員会)

県立浜松特別支援学校

1 日時 令和6年6月3日(月) 午前10時から正午まで



2 参加者

(1) 委員

- 特定非営利活動法人 くらしえん・しごとえん 代表理事 鈴木 修
- 五島地区自治会連合会 会長 鈴木美佐男
- PTA会長 渥美 祥子
- 浜松学院大学 現代コミュニケーション学部教授 子どもコミュニケーション学科長 笹原 康夫
- (株)日本マクドナルドフランチャイジー 株式会社フロム東海 代表取締役 山田 晴茂
- 南障がい者相談支援センター センター長 大場 拓弥
- 浜松市防災学習センター センター長 藤田 具克

(2) 教職員

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事
中学部主事、高等部主事、教務課長、進路支援課長
情報教育課長、防災課長、CS担当



3 次第

(1) 開会

ア 校長挨拶

- ・学校の近況について、県教育委員会による校舎の建て替え及び土壌調査に関する説明会を実施した。
また、教育活動では高等部の現場実習に向けた決意表明式が予定されている。小中学部の児童生徒は入学や進級による新しい生活に徐々に慣れてきている。
- ・本会では、学校のビジョンや課題の共有と課題解決に向けたアイデアをいただけるとありがたい。

イ 自己紹介

ウ 委員の委嘱、会長・副会長の選出

校長より7人の方に委員の委嘱をした。

会長：鈴木 修氏 副会長：鈴木美佐男氏 (規則の14条に基づく)

エ 趣旨説明 (副校長)

- ・コミュニティ・スクールの魅力について
- ・熟議、協働、マネジメントについて
- ・幼稚園、高等学校、特別支援学校の特性を踏まえた在り方について

(2) 令和6年度学校経営計画、不祥事根絶に向けた取組計画(校長・副校長)

- ・質疑 特になし

(3) 熟議 (全体進行：学校運営協議会会長)

ア はじめに

(ア) 本校卒業生等が参加した浜松地区マクドナルドチャレンジクルーボウリング大会について報告

特別支援学校卒業のスタッフの交流とオーナーや店舗スタッフのマインドセットを目的にボウリング大会を開催した。クルーのメンバーはこの日を楽しみにしていて、長年（長いスタッフは 15 年目）仕事をしていると落ち込むこともあるようだが、リセットされたようだった。また、オーナーにとっても良い機会となったと感じる。（山田氏）

(イ) 令和 5 年度学校運営協議会グループ協議の報告（C S 担当）

(ウ) 令和 6 年度学校運営協議会年間計画の提案（C S 担当）

イ 熟議

学習・防災応援隊 ファシリテーター（小学部主事）

○令和 6 年度地域学習の計画と児童生徒の願う姿について

小学部（小学部主事）

- ・校外での学習が増えてきている。経験を通して、調べる・伝える意欲の高まりや、好きなことが増えることを願っている。また、公園等で元気に遊んだり挨拶を交わしたりすることで、地域の人々に本校のことを知ってもらいたいと考える。
- ・担任との関わりから、学校生活を支えてくれる身近な人、そして地域へと関心が徐々に広がるように段階を踏まえて指導している。

中学部（C S 担当）

- ・中学部は、地域を知り、地域と触れ合い、地域の役に立つ活動の中で地域との触れ合いを大事にしている。～さんがいる地域が好きという気持ちを育てる時期である。
- ・花の会や自治会の方と花や芋の苗植えなどを計画している。これらの触れ合った経験を 12 月の販売会につなげたい。お客さんとして来ていただけるとありがたい。
- ・江南中学校との掃除交流を昨年度から始めた。今年度も継続して、学校周辺、バス停等、江之島グリーン作戦として取り組む。

高等部（高等部主事）

- ・中田島砂丘を中心とする江之島グリーン作戦を学部全体で年間 3 回実施する。
- ・販売会は、地域の方に買っていただけるような質の高い製品づくりに努めている。
- ・浜松市防災センターへの校外学習をとおして防災についての生徒の意識を高める。
- ・浜松江之島高校とは、音楽の授業交流や本校の販売会のチラシ配り、高校の窓清掃などを行う。
- ・作業学習では彩ファームから栽培指導を受ける。また、花みずき工房、都田建設、共和サポート＆サービス等、地域の企業から資材提供を受けて作業学習の製品づくりに活用する。

○PTA 応援隊について

- ・学校応援隊は P T A だけでなく浜松学院大学生等、昨年度から徐々に増えている。そのような流れの中で、今年度の P T A は募集一覧表を作成して会員に参加を募った。応援内容は、本校の教員が外部の方に応援してもらいたいことである。今後もリマインド募集をかけていく。（C S 担当）
- ・実施したプール掃除には 7 人参加した。「子どもが使っているプールがきれいになってよかった。」や、「子どもが学習する場を知ることができた。」などの感想があった。私も参加したが、子どもから学校の様子を聞くことが難しいこともあるので、様子が分かってよかった。（渥美氏）
- ・昨年度は応援隊認定証を発行していたが、今年からポイントカード形式にしてポイントを貯めるこ

とを楽しむといったように、できることをできるタイミングで、気楽に取り組んでもらえたらと思っている。先生方にコーディネートしてもらっているが、その負担が大きいのではと感じている。

○テーマについて

- ・地域に出ていくことも、保護者に応援してもらうことも増えてきている。その中で、新たな課題が出てきている。今回のテーマがそれである。(小学部主事)

テーマ

応援隊は増えてきているが、私たち教員が応援してくれる人をもてなそうとしたり、構えてしまったりすることがある。このような教員の意識を変えるアイデアについて

- ・テーマに関するエピソードとして、一つはプール掃除、もう一つはメンテナンス班との清掃活動である。プール掃除では、教員側から保護者の参加人数に制限がかかったということがあった。保護者の参加が増えたのであれば、教員を減らせばよいが、一緒に掃除しないと悪いとか、声を掛けないといけないのではないかなど、もてなそうとする教員がいる。もう一つのメンテナンス班と一緒に清掃をする応援隊では、メンテナンス班から見学にしてもらいたいという声があった。将来の生活を考えて良い学習の機会であり、見学ではもったいないと感じた。
このようなことから、応援してくれる人は増えてきているが、応援してもらう私たちの意識がなかなか変わっていないということに気づいた。(CS担当)
- ・ここまでで質問等はあるか。(小学部主事)
- ・地域、保護者が学校の力になるという流れは小中学校でもある。そのベースには教員の働き方改革がある。プール掃除は私の大学にもオーダーがあり対応している。もっと進んでいる学校は業者がやる。テント張りも大学にオーダーがあるが、業者が担っている学校もある。教員は全く手を引いている。学校の先生が取り組むこと、業者がやること、地域に頼めることという仕分けをしないと意識は変わっていかないだろう。(笹原氏)
- ・昨年度そのような三つの観点で仕分けをした上で、一覧表になっているが、教員への浸透は弱いと思う。(小学部主事)
- ・働き方改革の意識のことに加えて、特別支援学校ならではのボランティア活動の意味があるのではないと思った。テント張りやプール掃除など、高等部の生徒が取り組むことに教育的な意味がある。小中学校とは違うボランティアの考え方が特別支援学校にはあると思う。(笹原氏)
- ・働き方改革のアピールは保護者にも教員にも更にあるとよい。(小学部主事)
- ・PTAからアナウンスするときに先生方の負担が軽くなるということも意識して伝えていきたい。
(渥美氏)
- ・PTA会長の「私たちはゲストではない。」と言っていたことを職員に伝えていきたい。(CS担当)
- ・教員は知らない部分がある。応援隊の意図や保護者の参加の気持ちなどを伝えられるとよい。
(小学部主事)
- ・ボランティアが来ていることを知らないこともある。掲示板等で知らせるということもあるが、もっと気軽に保護者が来たときには、教員から笑顔で率先して挨拶をするような日常的な雰囲気づくりが大切だと思う。(防災課長)
- ・PTAの応援活動について、職員間での共通理解がまだ弱いと感じる。その上で、改めてすみ分けをしたい。また、やってもらうことを申し訳ないという気持ちはある。今後は、学校を盛り上げていく仲間として、「すみません。」を「ありがとう。」という言葉に変えようと思う。(高等部主事)

- ・掲示板で保護者が来ることはアナウンスされているが、朝の打ち合わせの情報量が多く、なかなかヒットしない。(小学部主事)
- ・やってほしいこと、やってもらおうと決めたことは任せるといことが大切ではないか。すみませんという気持ちはありがたいことである。特別支援学校の先生方は優しい。他はもっと任せている。地域も子どもたちと関わることはあるが、子どもたちの様子が分からないので、先生方には付いてもらいたいと思う。基本は任せればよい。(自治会長)
- ・事務職員、行政職員の働き方改革では、事務の集中化が進んでいる。そのような流れの中で、学校の教員がやることと、事務職員がやることを見直すことが必要になってくる。教員がやっていたことを行政職員に移すということもあるだろう。例えば、本校では難しいかもしれないが、事務職員がPTAと関わったり、学年会計も事務職員がやったりするなどである。教員からの意見を聞いて、事務と仕事のすみ分けを考えることは今後、必要だと思う。(事務長)
- ・自治会長から任せるとい話がもあったが、現在のPTA活動は、先生の負担が大きいのではないかと懸念している。今年度、役員の数も減らすなど、組織の見直しもしている。PTA主体で発信できるツールがあるとよいと思う。先生を介してPTAのことを発信するのと、私たちから先生方に直接伝えるのでは、受け止め方は違うと思う。(渥美氏)
- ・県立学校のCSの仕組みはどうなっているのか。コーディネーターを位置づけないと、進まないと思う。(笹原氏)
- ・小中学校では地域学校協働本部があり、そのコーディネーターがこのような学校運営協議会に参加して、地域と学校をつないでいるのだろうが、本校では学校応援隊づくりプロジェクトを立ち上げ、CS担当が地域や保護者とつないでいる。(CS担当)
- ・教員側にもPTA側にもつなぐ役割は必要で、その上で実務的なことをする人が欲しい。謝金等のこともあるだろうが、今後の話として、これが大きくなっていくと対応しきれなくなるので、体制について考えていけるとよい。(笹原氏)
- ・学校の周辺の草取りでは、期日を事前に知らせてくれば、PTAだけでなく地域からも集まるだろう。そういった仕組みを作ればよいのではないか。(鈴木美佐男氏)
- ・仕組みややり方については、今後も検討していきたい。(小学部主事)
- ・小学校は地域の人がどんどん入ってくるが、中学校になると減る傾向にある。高等学校や特別支援学校は地域が広範囲なので、根本的に入りにくいということがあるのではないか。入りづらさはあるかもしれないが、特別支援学校の子どもの小中学校の子どもの関わり方に違いはない。私は、防災センターで話をすることが多いが、ゆっくり丁寧に話すことを心がけている程度である。特別支援学校への入りづらさのようなものがクリアになり、中学校や地域が気軽に特別支援学校と行き来することができるようになれば、いろいろな問題がスムーズに解決されるように感じる。(藤田氏)

進路・福祉応援隊

ファシリテーター (中学部主事)

テーマ

進路・福祉に関する課題を共有し、課題解決に向けた取組計画を立てる。

○ 進路指導と福祉サービス利用に関する現状について

- ・本校の過去 10 年の進路状況について、傾向としては卒業後すぐに一般企業、A型、就労移行に進む

ケースは令和3年度からは減ってきている。10年前は卒業後すぐに就職というケースは6割くらいあったが、今は卒業後すぐに就職という希望は4割ない。(進路支援課長)

- ・他の特別支援学校でも以前は企業就労が多かったが、一端、移行をはさむケースが増えているということも聞く。親御さんの中でもお子さんの企業就労を希望しないという話も聞く。一旦、福祉をはさんでから就労へつながるケースは実際、どのくらいあるのか。追跡等はしているのか。

(鈴木修氏)

- ・これまでは追跡はしていなかったが、昨年度から調べ始めている。今年度内にはある程度分かると思う。(進路支援課長)
- ・企業は雇用率が上がってきている中で、ギャップを感じる。(鈴木修氏)

○ 実習評価表の在り方について

- ・高等部が使用している実習評価表を見直したいと思っている。改善にあたって、企業や福祉の視点で御意見をいただきながら進めたいが、次の学校運営協議会の議題にしてよいか。(中学部主事)
- ・実際、評価表は参考になっているのか。(山田氏)
- ・客観的な評価が視覚化されていることで、保護者・生徒、教員それぞれの立場から課題や目指すところを検討することができている。非常に役立っている。(情報教育課長)
- ・担任はこれを基に生徒等と振り返りをしているので活用している。(進路支援課長)
- ・評価する立場としては、付けやすい様式だと思う。ただ、コメント欄が少ないため、細かいニュアンスを伝えることができない。親御さんも御覧になるということだが、実は、改善ポイントだけでなく、グッドポイントもたくさんあり、伝えたいと思っているので、文章で書く欄が増えるとよい。

(山田氏)

- ・特別支援学校の統一された様式か。(鈴木修氏)
- ・一律かどうかは分からない。完全に一致はしていないがおそらくほぼ同じような内容ではないか。

(進路支援課長)

- ・例えば会話とあるが、会話よりも必要なことをきちんと伝えられるかということが重要ではないか。現場に即して、文言を見直していくとよいと思う。いくつかの会社のフォーマットも参考にできるとよい。(鈴木修氏)
- ・直Bのアセスメントと今後始まる就労選択支援事業について、これらの関係性は、どうなっていくのか。福祉の動きはどうか。(鈴木修氏)
- ・就労選択支援事業はまだ見えてきていないところがある。(大場氏)
- ・浜松市で取り組んでいることはない。滋賀県ではこれらのことについて発表している人もいる。就労選択、直との違いなどについては今後意識していきたいところである。(鈴木修氏)
- ・次回に向けて準備できることはあるか。(中学部主事)
- ・必要ならば現場として、案を出すことはできる。(山田氏)
- ・他の企業へ少し声を掛ければ社名は出さずに提供してもらえるように声を掛けることはできそう。山田さんや大場さんと一緒に資料を整えていきたい。(鈴木修氏)
- ・学校側も改めて読むと改善したいという点があるので、まずは校内で見直す。(進路支援課長)
- ・7、8月に準備を進めたい。(山田氏)

○ 現場実習の巡回指導における教員の指導スキルの向上に向けた取組について

- ・教員の入れ替わりが多く、高等部の担当が初めてという教員も多い。巡回時の視点等について、教員のスキルアップが求められている。これらのことについて、研修の機会を持ちたい。(進路支援課長)

- ・観察のポイントを教えていただきたい。ということだが、時期的には？（中学部主事）
- ・秋の実習に向けて夏休みにお話いただけるとありがたい。（進路支援課長）
- ・もちろんだんどんやるので言ってほしい。昨年度、他の特別支援学校で私は、「雇用率とは」や「実習に行くにあたってのポイントとは」などについて、15 分程度のミニ学習会を年間数回行った。浜松市の事業を活用して、オンラインでも可能である。（鈴木修氏）
- ・オンラインを活用できるのであればありがたい。（進路支援課長）
- ・初めての先生でも巡回の現場では素晴らしい。おそらく行く前が不安なので、心構えのような話を聞く機会があるとよいのではないか。（山田氏）
- ・他校の例で、巡回指導に向けて緊張しているという先生がいた。「先生以上に生徒は緊張している。緊張して当たり前である。何で緊張したか何で困ったかを大事にしましょう。」という話をしたことがある。オンラインでも可能である。（鈴木修氏）
- ・山田さんのお話で、スタッフは悩んでいることがあるとのことだった。どんなことで悩んでいるのかということを事前に教えてもらえたら、実習に行く前に取り組めることもあると思う。（教頭）
- ・昨年度の先輩学でも扱った。就職してから長く続けていくのにはいろいろな道があって、そのような話もできたらよい。（山田氏）
- ・福祉についても巡回指導のポイントを学びたいがいかがか。（中学部主事）
- ・一方的な説明ではなく、一緒に話しながら意見交換のようなことができれば取り組みやすい。
- ・依頼をしたら御協力いただけるか。（中学部主事）
- ・南行政センターは近いので、出向くことは可能である。昨年度のような講義ではなく、意見交換という方法で取り組めるとよい。（大場氏）

○ 生徒対象の先輩学について

- ・昨年度好評で、生徒にとって直接話を聞いたことがよかった。不安に思っていたことが解消され、将来へのいいイメージを持った生徒が多くいた。継続して山田さんをお願いしてもよいか。
(進路支援課長)
- ・構わないが、いろいろな職種でやってもいいかもしれない。声を掛ければ、来てくれるところはあ
ると思う。（山田氏）
- ・学校側で卒業生の中から、この生徒に来てもらいということを企業に依頼してみるという方法もある
のではないか。（鈴木修氏）
- ・あまり企業色を出すのもいかなものかとも思うが、例えばマクドナルドや京丸さんなど違う職種
が集まってもいいかもしれない。（山田氏）
- ・子どもたちの無理がない形が望ましいが、例えば学校見学会とリンクさせてもよい。（鈴木修氏）
- ・前回のような授業という形態が気軽にできるだろう。（山田氏）
- ・違う職種にも声を掛けてみたいと思う。（進路支援課長）
- ・保護者も見かけたようだが、あまり増えると発表しづらいか。（進路支援課長）
- ・あまり多いと話す方も構えてしまう。（山田氏）
- ・録画、オンライン等、参観の方法はありそうだ。（鈴木修氏）
- ・今年度の職員向けの研修について、プランはあるか。（中学部主事）
- ・昨年度は講演だったが、実際に出向いて見学したいという教員の声があったので今年は見学に変え
る。（進路支援課長）
- ・昨年度の講義の資料は、今年度の新任者で共有するようにしたい。次年度は講義していただくとい

うことでよろしく願いたい。(中学部主事)

○ その他

- ・昨年度取り組んだ、進路先に関する地図は怎么样了か。(山田氏)
- ・地図はできている。追加情報があり更新したい。また、企業での実習のビデオのリンクをはることでできると考えている。(進路支援課長)
- ・企業は、ビデオ撮影は大丈夫か。(情報教育課長)
- ・目的を伝えることが重要だろう。(鈴木修氏)
- ・事業所の許可を得て、作業のビデオを 10 秒以内に撮り、クラウドでリンクをはるという作業になるだろう。(情報教育課長)
- ・先生方が作るのは大変だから、会社が撮影したものを提供してもらい、リンクをはるのはどうか。
(鈴木修氏)
- ・そもそも本校の運用ポリシーでは、リンクをはることは控えている。過去には、高等部の作業班へ端材を提供してくれた住宅会社が、本校の作業の様子を参観してインスタに掲載したということはあった。(情報教育課長)
- ・基本的に学校だけがやるのではなく、企業側がやらないといけないという思いになるように進められるとよい。(鈴木修氏)
- ・少なくとも保護者が家庭で進路先の地図を見ることができるようにはならないか。(進路支援課長)
- ・方法としてはよいが、前例がないので、諸々手続きが必要である。(情報教育課長)
- ・現在、地図は誰が見ているのか。(中学部主事)
- ・今は学校で、参観会で見るができるようにしている。先生方も閲覧できるようになっている。
(進路支援課長)

ウ 熟議内容の共有

学習・防災応援隊 報告(笹原氏)

- ・地域の資源を活用した学習では発達段階に応じて自立に向かっていろいろな経験がされていることが分かった。
- ・PTAの応援隊活動については、保護者の意識も高まってきていて活動が充実してきている。
- ・テーマについて、働き方改革の流れの中で考える必要がある。そして教員の仕事とは何か、教員がやらなければならないことは何か、教員がやらなくても他にまかせられることは何かということについて見直す必要がある。
- ・鈴木自治会長からの「浜特の先生は優しい。他の学校はそんなに気を遣わないよ。」という話が印象的で、核心をついていると感じた。それは、特別支援学校は広範囲から子どもたちが通学してきていて、公立の小中学校とは違う状況にあるということだ。そのようなこともあり、先生方が気を遣われているということがあるのかもしれない。いかに垣根を低くしていくか、いかに先生方が地域、保護者を受け入れていくのかということが今後、議論していくことかと思う。

進路・福祉応援隊 報告(大場氏)

- ・一般就労の希望が少しずつ減っている。A型、B型につながった方がその後一般就労に結びついていくについては、追跡調査をしているとのことである。一方で企業の雇用率も上がってきているので、調査の結果を見て、今後も話題にしていく。

- ・巡回指導の観察のポイントについては、秋の実習に向けて夏休みに高等部の先生方対象に学習会ができる。他にも放課後の時間を使って簡単なテーマで短時間の学習会を実施することや、意見交換という形態の研修も可能である。
- ・実習評価表は保護者、生徒と同じ方向で振り返ることができたり、成長の度合いが見えたりするのに役立っている。コメント欄を作ることで良い点も伝えることができるなどの意見が出された。評価表については他県や企業の評価表を参考に今後、話し合いを深めていく。
- ・生徒対象の先輩学については、昨年度の取組がよかったので継続していきたい。保護者の参観希望があったが、リモートや録画も検討していく。卒業生が大勢就職した企業に声を掛けるなど、今後、様々な職種から話を聞く機会になるとよい。

エ 総評

第1回は歩調合せだと思う。新しい委員の方や学校も入れ替わりがあり、どのような形がよいのかなどについて、思ったことをたくさん伝えることが大切だと感じる。

先生方の負担をどう減らすかという発想は大事である。それには、先生方から、しんどさを言ってもらいたい。言ってもらわないと、余計なお節介になってしまう。うまく活用してほしい。

2回目は10月、それまでにいろいろできることがあると思う。この続きができることが楽しみだ。

(4) 閉会

ア 校長あいさつ

熱心に熟議していただきありがたかった。両グループとも参考になるアイデアがたくさんあった。

私たちは、自分たちでやらなければという勝手に使命感を背負うことがある。自分たちだけで取り組まずに、外部の方を巻き込み、力を借りることが大切なのだと感じた。そうすることで、より大きな達成感を得ることができ、また、応援を受けることによって、その分、子どもに向き合う時間も増えるのだと改めて感じ、職員に伝えていきたいと思う。今後もよろしくお願いいたします。

(5) 連絡

第2回 学校運営協議会

開催日時 令和6年10月7日（月）10:00～12:00